

受験上の注意

平成 27 年度大学入試センター試験を受験するに当たっては、この「受験上の注意」、「受験案内」及び「受験案内」に添付の「リーフレット」をよく読んでください。
また、試験当日はこの「受験上の注意」を持参してください。

次の(1)～(6)は、平成 27 年度大学入試センター試験を受験するに当たって、特に気をつけなければならない注意事項ですので、試験前に必ず確認してください。

- (1) 平成 27 年度大学入試センター試験では、数学、理科において新しい学習指導要領に対応した科目と経過措置による科目を出題します。このことにより、受験者を「新教育課程履修者」と「旧教育課程履修者」に区分しています。すべての受験者は、自分がどちらの履修者であるか、また受験する教科などについて、2 ページの「受験票を確認する際のポイント」を参考にして受験票の表示内容を必ず確認してください。
- (2) 試験当日は、受験票の受験教科名欄に「○」が表示された教科（登録した教科）以外を受験することはできません。万一、登録していない教科を受験してもその教科は採点されません。
- (3) 「地理歴史、公民」の受験科目数及び「理科」の科目選択方法（A～D, H, K）は、試験当日に変更することはできません。
- (4) 「地理歴史、公民」又は「理科②」を「2 科目受験する」と登録した場合は、試験当日に 1 科目のみを受験することはできません。このため、遅刻者の試験室への入室限度（「地理歴史、公民」は 9 : 50, 「理科②」は 15 : 50）までに入室しないと、後半の第 2 解答科目を含めてその試験時間の受験は一切できません。また、第 1 解答科目のみを受験し、途中退室することもできません。
- (5) 受験する教科によっては、類似の名称の科目（例えば「倫理」と「倫理、政治・経済」、
「数学Ⅰ」と「旧数学Ⅰ」、
「数学Ⅱ」と「数学Ⅱ・数学B」など）が同一の問題冊子に編集されていますので、解答する科目が掲載されているページを間違えないようによく確認してください。
- (6) 「数学①」、「数学②」及び「理科②」の解答用紙は、解答科目欄に新課程・旧課程それぞれの科目のマーク欄がありますので、自分が解答する科目をよく確認した上で正しくマークしてください。
また、選択問題がある科目を解答する場合は、選択した問題の解答欄を間違えないようにマークしてください。

受験票を確認する際のポイント

- 登録内容と受験票の表示内容について4ページの「2 受験教科・科目」をよく読んで必ず確認してください。特に以下の①～⑤は注意して確認してください。

なお、訂正届を提出した場合は、訂正した内容のとおり表示されているかを確認してください。

万一、表示内容に誤りがあった場合は、受験票を再発行する必要がありますので、直ちに大学入試センター事業第1課（裏表紙）まで電話で連絡してください。

平成27年度 **大学入学者選抜大学入試センター試験受験票**
指定された試験場以外では、受験できません。

①	試験場名	東西大学第1試験場	試験場コード	200011	受験番号	1001X	発行回数	1	上履き持参	受験上の配慮	ヘッドお貸与		
	所在地	東京都目黒区駒場2-19-23			性別	男	平成08年10月02日生						
	道順	京王電鉄井の頭線「駒場東大前駅」西口下車、徒歩5分			②			新教育課程履修者					
	問い合わせ先	東西大学	試験当日以外の電話	03-3465-8600	③			受験教科名					
			試験当日の電話	03-3465-8600	④			備考					
	入学手続まで必要です。	西多摩高等学校	写真 (4cm×3cm) 写真の裏に氏名を記入の上、あらかじめしめかめと貼っておいてください。			⑤			1 地理歴史、公民 ○ 登録科目数2				
		(コマバ 知ウ) 駒場 太郎 殿 (13440G-20011-010001)	自筆欄 (氏名)						2 国語 —				
			（あらかじめ裏のバーコードを記入してください。）						3 外国語 ○ 別冊子配付あり				
									4 理科① —				
									5 数学① ○				
									理科② ○ 登録科目数1				

・○を付した教科のみ受験できます。
 数学は数学①と数学②を合わせて表示しています。
 ・登録された教科、科目数、理科②の新・旧の課程科目を変更することはできません。

① 試験場

- ・ この欄で自分が指定された試験場を必ず確認してください（この試験場以外では受験できません）。
- ・ 地理歴史、公民の受験する科目数又は理科の科目選択方法などにより、同じ学校の志願者が別々の試験場に指定されている場合がありますので、注意してください。
- ・ 試験当日は余裕を持って試験場に到着できるよう、試験場までの道順を事前に確認（下見）するようにしてください。

② 履修者区分

- ・ 「新教育課程履修者」又は「旧教育課程履修者」と表示されています。
- ・ この欄で、自分が新又は旧のどちらの教育課程の履修者として登録されているかを確認してください。

③ 地理歴史、公民の登録状況

- ・ 地理歴史、公民を「受験する」と登録した場合、備考欄に登録科目数が表示されています。

④ 数学の登録状況

- ・ 数学を「受験する」と登録した場合、数学①と数学②をまとめて1つの「○」で表示されています。
- ・ 「○」が付してある場合は、試験当日に数学①と数学②の両方又はいずれか一方を受験できます。

⑤ 理科②の登録状況

- ・ 理科②を「受験する」と登録した場合、備考欄に、科目選択方法により、下表のとおり表示されています。

履修者区分	表示内容
新教育課程履修者	登録科目数のみ
旧教育課程履修者	(新課程科目を登録した場合) 登録科目数及び「新課程科目を登録」
	(旧課程科目を登録した場合) 登録科目数及び「旧課程科目を登録」

1 試験実施期日等

【1日目】

日 程	出 題 教 科 ・ 科 目		受験者入室	試験開始	試験終了
平成 27 年 1 月 17 日 (土)	地理歴史 公 民	「世界史A」 「世界史B」 「日本史A」 「日本史B」 「地理A」 「地理B」 「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 「倫理, 政治・経済」	2科目登録者		
			9:05まで	9:30	11:40
	国 語	「国語」	12:45まで	13:00	14:20
		【筆記】 「英語」 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	14:55まで	15:10	16:30
		【リスニング】 「英語」	17:05まで	17:10	18:10

【2日目】

日 程	出 題 教 科 ・ 科 目		受験者入室	試験開始	試験終了
平成 27 年 1 月 18 日 (日)	理科①	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」	9:15まで	9:30	10:30
	数学①	「数学Ⅰ」 「数学Ⅰ・数学A」 「旧数学Ⅰ」 「旧数学Ⅰ・旧数学A」	11:05まで	11:20	12:20
	数学②	「数学Ⅱ」 「数学Ⅱ・数学B」 「工業数理基礎」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」 「旧数学Ⅱ・旧数学B」	13:25まで	13:40	14:40
	理科②	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」 「理科総合A」 「理科総合B」 「物理Ⅰ」 「化学Ⅰ」 「生物Ⅰ」 「地学Ⅰ」	2科目登録者		
15:15まで			15:30	17:40	
		1科目登録者			
		16:25まで	16:40	17:40	

(注 1) 国語及び外国語（「英語」を除く。）は、各教科について 1 試験時間とし、地理歴史及び公民については、合わせて 1 試験時間とします。数学及び理科は、①及び②の出題科目のグループごとに、外国語「英語」は、筆記とリスニングに試験時間を分けます。

(注 2) 「地理歴史、公民」又は「理科②」を「2 科目受験する」と登録した場合は、試験当日に 1 科目のみを受験することはできません。このため、遅刻者の試験室への入室限度（「地理歴史、公民」は 9:50, 「理科②」は 15:50）までに入室しないと、後半の第 2 解答科目を含めて、その試験時間の受験は一切できません。

また、第1解答科目のみを受験し、途中退室することもできません。

(注3) 「地理歴史、公民」又は「理科②」の試験時間において「2科目受験する」と登録した場合は、解答順に第1解答科目及び第2解答科目に区分し各60分間で解答を行います。第1解答科目及び第2解答科目の間に答案回収等を行うために必要な時間を加え、試験時間は130分とします。

なお、答案回収等を行うための時間中に問題冊子を開いたり、試験室から退室することはできません。トイレ等を理由にやむを得ず退室する場合でも一時退室を理由に解答開始時刻の繰下げや試験時間の延長は認められません。

(注4) リスニングは、音声問題を用い30分間で解答を行います。解答開始前に受験者に配付したICプレーヤーの作動確認・音量調節を行うために必要な時間を加え、試験時間は60分とします。

2 受験教科・科目

(1) 受験票には、受験教科・科目に関する以下の事項を表示していますので、登録内容と受験票の表示内容に誤りがないかをよく確認してください。

なお、訂正届を提出した場合は、訂正した内容のとおり表示されているかを確認してください。

万一、表示内容に誤りがある場合は、受験票を再発行する必要がありますので、直ちに大学入試センター事業第1課（裏表紙参照）に電話で連絡してください。

また、受験票には試験場に関する事項も表示していますので必ず確認してください。

事 項	表 示 内 容
新教育課程履修者 旧教育課程履修者	あなたが履修した教育課程が表示されています。
受験教科名	受験できる教科（登録されている教科）には、受験教科名欄に「○」が表示されています（「—」を付した教科を受験することはできません。）。 なお、数学は「数学①」と「数学②」を合わせて表示していますので、「○」があれば両方又はいずれか一方のグループの受験ができます。
登録科目数 （「地理歴史、公民」、 「理科②」のみ）	「地理歴史、公民」又は「理科②」は、備考欄に登録科目数が表示されています。例えば、「地理歴史、公民」の備考欄に「登録科目数2」という表示があるのは、「地理歴史、公民の中から2科目受験する」という意味です。
「理科②」の登録状況 （旧教育課程履修者 のみ）	「理科②」を受験する旧教育課程履修者の場合は、「理科②」で受験できる科目が「新課程科目」と「旧課程科目」のどちらかで登録されているかが、登録科目数の下に表示されています。 なお、新教育課程履修者については、上段に登録科目数のみが表示されています。
別冊子試験問題	「数学②」又は「外国語」を受験する者で、出願時に別冊子試験問題の配付を希望した場合のみ、備考欄に「別冊子配付あり」と表示されています。 なお、この場合は、試験当日に別冊子試験問題も配付されます。

(2) 試験当日は、受験票の受験教科名欄に「○」が表示された教科（登録した教科）以外を受験することはできません。万一、登録していない教科を受験しても、その教科は採点されません。

(3) 「地理歴史、公民」を「2科目受験する」と登録した場合は、例えば「倫理」と「倫理、政治・経済」のように、同一名称を含む科目の組合せで2科目を選択することはできません。（9ページ参照）

(4) 「地理歴史、公民」又は「理科②」について、受験票に「登録科目数2」と表示されている場合、試験当日に1科目のみを受験する（1科目だけ受験を取りやめる）ことはできません。同様に、受験票に「登録科目数1」と表示されている場合、試験当日に2科目を受験することはできません。

「2科目受験する」と登録した場合、2科目分を採点（前半の60分を第1解答科目、後半の60分を第2解答科目として採点）します。

- (5) 「地理歴史、公民」又は「理科②」で「2科目受験する」と登録した場合、志望する大学の募集要項で、第1解答科目と第2解答科目の取扱いをよく確認の上、第1解答科目と第2解答科目の解答順を決定してください。
- (6) 「理科①」は試験時間60分で必ず異なる2科目を選択解答してください。1科目のみの受験はできません。
なお、解答する科目の順序と時間の使い方は自由です。
- (7) 理科の科目選択方法(A～D, H, K)を試験当日に変更することはできません。
- (8) 「理科①」と「理科②」を受験する場合は、例えば「物理基礎」と「物理」のように、同一名称を含む科目を選択して解答することができます。ただし、大学によっては認めていない場合もありますので、志望する大学の募集要項で、「理科①」と「理科②」の科目選択の取扱いをよく確認してから受験してください。
- (9) 数学を受験する旧教育課程履修者は、理科の科目選択方法(A～D, H, K)にかかわらず、数学の新課程科目又は旧課程科目を選択できます。また、「数学①」と「数学②」の間において、新課程科目と旧課程科目を別々に選択することもできます。
- (10) 外国語において「英語」を選択する受験者は、原則として、筆記とリスニングの双方を受験してください。
なお、「英語」以外の外国語の筆記を受験した場合、リスニングを受験することはできません。
- (11) 出願時に別冊子試験問題の配付を希望しなかった場合は、別冊子試験問題の科目を受験することはできません。

3 受験票の取扱い

- (1) 受験票及び写真票の写真欄には、**同一の写真**(写真の裏に氏名を記入すること。)をはがれないようにしっかりと貼り付けてください。
写真は、縦4cm・横3cmの大きさで試験日前3か月以内に撮影した上半身無帽のものとし、白黒・カラーは問いません。画像が鮮明であれば、スピード写真やデジタルカメラで撮影した写真でも構いません。
なお、試験時間中に眼鏡をかける者は、眼鏡をかけて撮影してください。
- (2) 受験票及び写真票の自署欄には、あらかじめ**受験者本人**が黒のボールペンで氏名を記入しておいてください。この署名は、答案の署名と照合することがあります。
- (3) 成績請求票は、受験票、写真票とあらかじめ切り離して、大切に保管しておいてください。
- (4) 受験票は、各大学の個別学力検査等及び入学手続の際にも必要となりますので、大学入試センター試験終了後も大切に保管しておいてください。
また、大学入試センター試験の成績については、過去3年前のものまで、大学の判断で当該年度の入学者選抜に利用できます。このような選抜を行う大学へ出願する際には、該当する年度の大学入試センター試験受験票が必要となります。

4 試験当日の注意事項

- (1) 受験票及び写真票は、必ず持参してください。試験当日は常に受験票を携帯する必要があります。
試験当日に、受験票、写真票を紛失、又は持参し忘れた場合には、試験場本部に行き、仮受験票、仮写真票の交付を受けてください（試験場本部の場所は、試験当日、試験場で確認してください）。
ただし、受験者入室時刻までに試験場本部に行く時間がない場合は、試験室に行き、試験監督者に申し出てください。
- (2) 自分が受験する教科・科目の**受験者入室時刻（3ページ参照）**までに、指定された試験場の試験室に入室してください。試験室の位置等は、試験場入口の掲示又は印刷物により確認してください。**指定された試験場以外では、受験できません。**
なお、受験者の付添者は、試験場構内に入構できないことがありますので、受験票の「問い合わせ大学」欄に記載された大学にあらかじめ確認してください。
- (3) 自分が受験しない試験時間も、他の試験室では試験を実施していますので、試験場内では、騒いだり、大声を出したりしないでください。
- (4) 受験教科として登録していない教科の試験時間は、試験室に入室できません。
- (5) 試験室では、机の上に貼られている「受験番号票」（18ページ参照）に表示されている受験番号が受験票のものと同一であることを確認して、着席してください。
- (6) 試験開始時刻に遅刻した場合は、**試験開始時刻後 20 分以内の遅刻に限り、受験を認めます。**
ただし、リスニングは、**試験開始時刻（17：10）**までに入室していない場合は、受験することができません。
また、「地理歴史、公民」又は「理科②」を「2科目受験する」と登録した場合は、遅刻者の試験室への入室限度（「地理歴史、公民」は9：50、「理科②」は15：50）までに入室しないと、後半の第2解答科目を含めて、その試験時間は**一切受験することができません**（試験当日に1科目のみの受験に変更することはできません）。
遅刻の理由が事故等の場合は、係員に申し出てください。
なお、試験当日、交通機関の事故又は災害等が発生した場合は、試験開始時刻を繰り下げることがあります。
- (7) 受験票に「**上履き持参**」と表示されている場合は、「**上履き**」と「**下履きを入れる袋**」を持参してください。
- (8) 自動車、バイク等での試験場構内への乗り入れを禁止します。
- (9) インフルエンザ、ノロウイルス等の感染症にかかり治癒していない者は、他の受験者に感染するおそれがあるため受験はできません。追試験の受験を申請してください。（14ページ参照）

5 試験時間中の注意事項

- (1) 所持品の取扱い
 - ① 「**受験票**」「**写真票**（最初に受験する時間の試験時間中に回収します。）」は、必ず机の上に置いてください。
 - ② 「**受験票**」「**写真票**」のほかに試験時間中、机の上に置けるものは、**黒鉛筆**（H、F、HBに限る）。

和歌・格言等が印刷されているものは不可。), シャープペンシル(メモや計算に使用する場合のみ可, 黒い芯に限る。), プラスチック製の消しゴム, 鉛筆削り(電動式・大型のもの・ナイフ類を除く。), 時計(辞書, 電卓, 端末等の機能があるもの, それらの機能の有無が判別しづらいもの・秒針音のするもの・キッチンタイマー・大型のものを除く。), 眼鏡, ハンカチ, ティッシュペーパー(袋又は箱から中身だけ取り出したもの。), 目薬です。

これ以外の所持品を使用又は置いている場合には, 解答を一時中断させて, 試験終了まで預かることがあります。

- ③ 携帯電話, スマートフォン, 腕時計型端末等の電子機器類は試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切っておいてください。試験時間中に, これらをかばん等にしまわず, 身に付けていたり手に持っているとは不正行為となることがあります。

なお, 試験時間中にかばん等の中で携帯電話の着信音やマナーモードの振動音などが発生した場合には, 監督者が本人の了解を得ずにかばん等を試験室外に持ち出し, 試験場本部で当該試験時間終了まで保管します。

- ④ 携帯電話, スマートフォン等の電子機器類の取扱いや机の上に置けるものについては, 机の上に貼られている「受験番号票」(18 ページ参照)にも表示しています。試験当日は, この表示や監督者の指示に従ってください。

- ⑤ 「耳せん」は, 監督者の指示等が聞き取れないことがありますので使用できません。

- ⑥ 試験室内で, コート類を着用しても差し支えありません。

英文字や地図等がプリントされている服等は着用しないでください。着用している場合には, 脱いでもらうことがあります。

- ⑦ 「座布団」「ひざ掛け」の使用を希望する者は, 監督者に申し出て許可を得てから使用してください。

(2) 不正行為

- ① 次のことをすると不正行為となります。不正行為を行った場合は, その場で受験の中止と退室を指示され, それ以後の受験はできなくなります。また, 受験した大学入試センター試験のすべての教科・科目の成績を無効とします。

ア 志願票, 受験票・写真票, 解答用紙へ故意に虚偽の記入(受験票・写真票に本人以外の写真を貼ることや解答用紙に本人以外の名前・受験番号を記入するなど。)をすること。

イ カンニング(カンニングペーパー・参考書・他の受験者の答案等を見ること, 他の人から答えを教わることなど。)をすること。

ウ 他の受験者に答えを教えたりカンニングの手助けをすること。

エ 配付された問題冊子を, その試験時間が終了する前に試験室から持ち出すこと。

オ 解答用紙を試験室から持ち出すこと。

カ 「解答はじめ。」の指示の前に, 問題冊子を開いたり解答を始めること。

キ 試験時間中に, 携帯電話, スマートフォン, 腕時計型端末, 電子辞書, IC レコーダー等の電子機器類を使用すること。

ク 試験時間中に, 定規, コンパス, 電卓等の補助具を使用すること。

ケ 「解答やめ。鉛筆や消しゴムを置いて問題冊子を閉じてください。」の指示に従わず, 鉛筆や消しゴムを持っていたり解答を続けること。

- ② 上記①以外にも、次のことをすると**不正行為となることがあります**。指示等に従わず、不正行為と認定された場合の取扱いは、①と同様です。

- ア 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末等の電子機器類や定規、コンパス、電卓等の補助具をかばん等にしまわず、身に付けていたり手に持っていること。
- イ 試験時間中に携帯電話や時計等の音（着信・アラーム・振動音など。）を長時間鳴らすなど、試験の進行に影響を与えること。
- ウ 試験監督者の指示に従わず、IC プレーヤーを操作したり IC プレーヤーの故障について虚偽の申出をすること。
- エ IC プレーヤー、イヤホン及び音声メモリーを試験室から持ち帰ること。
- オ 試験に関することについて、自身や他の受験者を利するような虚偽の申出をすること。
- カ 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- キ 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- ク その他、試験の公平性を損なうおそれのある行為をすること。

(3) 解答上の注意事項

- ① 受験者入室後、試験開始までの間に受験上の説明、問題冊子・解答用紙の配付等が行われます。なお、「地理歴史、公民」又は「理科②」の試験時間に2科目を受験する場合は、第1解答科目と第2解答科目の解答開始前にそれぞれ1枚ずつ解答用紙の配付を行います。第1解答科目、第2解答科目ともに1科目60分で解答してください。
- ② 「地理歴史」及び「公民」については、すべての受験者にパッケージ化された「地理歴史と公民の2冊」が配付されます。解答に使用しない冊子についても、必ず机の上に置いてください。万一、かばん等にしまうと、不正行為と判断されることがありますので十分注意してください。また、「外国語」及び「数学②」で別冊子問題を配付希望した場合も2冊の問題冊子が配付されますので、2冊とも机の上に置いてください。
- ③ 解答には、必ず黒鉛筆（H、F、HBに限る。）及びプラスチック製の消しゴムを使用してください。黒鉛筆以外のもの（シャープペンシル等）を使用してマークした場合には、解答が読み取れないことがありますので、使用しないでください。
- ④ 「定規（定規の機能を備えた鉛筆等を含む。）」「コンパス」「電卓」「そろばん」「グラフ用紙」等の補助具や、「携帯電話」「スマートフォン」「腕時計型端末」「電子辞書」「ICレコーダー」等の電子機器類は使用できません。試験時間中に、これらを使用すると不正行為となります。
- ⑤ 解答は、解答用紙の「マーク例」に従って、正しくマークしてください。マークが薄い場合、一部分しかマークしていない場合、訂正箇所を消しゴムできれいに消していない（消し跡が残っている）場合は、解答が正しく読み取れないことがあります。

(4) 受験番号・解答科目等欄記入時の注意事項

- ① 解答用紙の所定欄に受験番号、氏名、フリガナ、試験場コード、解答科目等を監督者の指示に従い、正しく記入、マークしてください。受験番号が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。解答用紙の受験番号のマークに当たっては、次のようなマークミスが多いので、注意してください。

- ア 間違った数字にマーク。(例えば 1 を 0 にマーク, 2 を 1 にマーク)
- イ 隣り合う数字を逆の順序でマーク。(例えば 1234 を 1324 のように入れ替えてマーク)
- ウ 英字のマークがない。
- エ 数字・英字のすべてにマークがない。

② 解答用紙の受験番号欄の右横の英字は、マークした英字が何であったかを、受験者がマーク後も確認できるように記載されているものです。この英字にマークしたり、○で囲むことはしないでください。

③ 「国語」とリスニング以外の解答用紙には解答科目欄がありますので、**解答する科目を1つだけマーク**（「理科①」は2つの解答科目欄にそれぞれ1つずつマーク）してください。

④ **解答科目欄に解答科目がマークされていない場合又は複数の科目にマークされている場合は、解答科目が特定できないため、0点となります。**

ただし、次の事例のように解答科目が特定できる場合は、以下のとおり取り扱います。

ア 外国語・・・別冊子試験問題の配付を希望していない場合は、別冊子試験問題の科目をマークしていても、別冊子試験問題が配付されていないため、「英語」として採点します。

イ 数学②・・・別冊子試験問題の配付を希望していない場合は、別冊子試験問題の科目をマークしていても、別冊子試験問題が配付されていないため、「数学Ⅱ」又は「数学Ⅱ・数学B」のいずれか1科目をマークしている場合に限り、マークしている「数学Ⅱ」又は「数学Ⅱ・数学B」で採点します。

ウ 理科②・・・受験できる教育課程以外の解答科目をマークしていても、受験できる教育課程以外の試験問題が配付されていないため、登録した教育課程の解答科目のいずれか1科目をマークしている場合に限り、登録した教育課程のマークしている科目で採点します。

(注) 追試験では、別冊子試験問題の科目の受験を申請している場合、申請科目で採点します。

⑤ 「地理歴史、公民」又は「理科②」の2科目受験者が、選択できない科目の組合せをマークしている場合は、**第1解答科目は選択した科目を通常どおり採点し、第2解答科目は0点（「科目不明」）として取り扱います。**

また、「理科①」の受験者が2科目とも同じ解答科目をマークしている場合は、両方とも採点し、高得点の方を解答科目として取り扱い、他方は0点（「科目不明」）として取り扱います。

【参考】

選択方法		選択例（マークした科目）	採点（成績提供）方法
同じ科目を選択した場合	地理歴史、公民及び理科②	第1解答科目：「物理」 第2解答科目：「物理」を選択	第1解答科目：通常どおり採点 第2解答科目：0点（科目不明）
	理科①	2科目とも「物理基礎」を選択	高得点の科目を解答科目として取り扱い、他方は0点（科目不明）
地理歴史又は公民で「同一名称を含む組合せ」の科目を選択した場合（→注）		第1解答科目：「世界史A」 第2解答科目：「世界史B」を選択	第1解答科目：通常どおり採点 第2解答科目：0点（科目不明）

(注) 地理歴史及び公民において選択できない「同一名称を含む組合せ」は以下のとおりです。

- 「世界史A」と「世界史B」
- 「日本史A」と「日本史B」
- 「地理A」と「地理B」
- 「倫理」と「倫理、政治・経済」
- 「政治・経済」と「倫理、政治・経済」

⑥ 「数学①」，「数学②」，「理科①」及び「理科②」の解答科目が不適切にマークされている場合は次のとおり取り扱います。

ア 新教育課程履修者が「数学①」又は「数学②」で、「旧課程科目」の解答科目をマークしている場合は、0点（「科目不明」）として取り扱います。

イ 「数学①」又は「数学②」で、「新課程科目」と「旧課程科目」の両方の解答科目をマークしている場合は、0点（「科目不明」）として取り扱います。

ウ 「理科①」で、2科目のうち一方の解答科目がマークされていない場合は、マークのある科目のみ採点し、もう一方の科目は0点（「科目不明」）として取り扱います。

エ 「理科②」で、受験できる教育課程以外の解答科目をマークし、登録した教育課程の科目をマークしていない場合は、0点（「科目不明」）として取り扱います。

(5) その他の注意事項

① 試験室に入室してから試験終了までは、「地理歴史，公民」又は「理科②」の2科目受験者の試験時間における第1解答科目と第2解答科目の間の10分間を含め、退室できません。

試験時間中の発病又はトイレ等により、やむを得ず退室を希望する場合には、手を挙げて監督者に知らせ、その指示に従ってください。

ただし、一時退室が認められた場合でも、休養室などでの受験はできません。また、一時退室した分の解答開始時刻の繰下げや試験時間の延長も認められません。

② 配付された問題冊子は、その試験時間が終了するまで、試験室から持ち出すことはできません。持ち出した場合は、不正行為となります。

③ 試験時間中に監督者が写真票と受験者の顔の確認を行います。「マスク」や「帽子」を着用している場合、本人確認のため、一時的に外すよう監督者が指示することがあります。

④ 試験時間中に日常的な生活騒音等（監督者の巡視による足音・監督業務上必要な打合せなど、航空機・自動車・風雨・空調の音など、周囲の受験者の咳・くしゃみ・鼻をすする音など、携帯電話や時計等の短時間の鳴動、リスニングのイヤホンやヘッドホンからの音もれ、周囲の建物のチャイム音など）が発生した場合でも救済措置は行いません。

6 受験上の配慮の通知等

受験に際して受験上の配慮を申請した者には、次の書類を別途送付します。

① 「受験上の配慮事項決定通知書」

（出願後の不慮の事故等による受験上の配慮については、受験案内の40ページを参照してください。）

② 「受験上の注意」（受験上の配慮の内容に応じた「受験上の注意」を送付します。）

7 リスニング

(1) リスニングの進行

リスニングは、ICプレーヤーを使用して受験者が個々に音声を聞き取りながら解答する試験です。試験時間60分の中で、解答開始前にICプレーヤーの操作準備・作動確認・音量調節を受験者各自で行った後、30分間で解答します。受験案内の42ページにリスニングの進行について記載していますので、確認してください。また、大学入試センターのホームページ（<http://www.dnc.ac.jp/>）で、IC

プレーヤーの操作を体験できますので、事前に操作体験をしておいてください。

(2) IC プレーヤーの操作準備

IC プレーヤーの操作準備は、監督者の指示により、解答用紙裏面のイラスト（13 ページ参照）を参照しながら行います。まず、①～④を行い、続いて⑤～⑦を、それぞれ行います。

(3) 解答開始時の IC プレーヤーの操作

「解答はじめ。」の指示の後、解答用紙表面のイラスト（13 ページ参照）を参照しながら IC プレーヤーを操作してから解答を始めます。

(4) 解答上の注意事項

- ① 問題音声は設問ごとに2回流れます。1回目の音声と2回目の音声 flowed 後には、解答するために音声の流れない時間があります。音声の流れていなくても、ICプレーヤーの上部にある「作動中ランプ」が光っていれば故障ではありません。



- ② 解答は、必ず設問ごとに解答用紙にマークします。解答を問題冊子に記入しておいて、解答時間の途中や最後にまとめてマークする時間は用意されていません。

(5) 試験時間中の注意事項

- ① 試験時間中は、他の受験者の聞き取りに支障をきたす不必要な音をたてることのないよう注意してください。
- ② ICプレーヤーには、「電源」、「確認」、「再生」の3つのボタンがあります。これらの3つのボタンは単にひと押ししただけでは、作動しません。ランプが光るまで長く押し続けてください。
- ③ 音声メモリーは一度差し込み、保護カバーを閉じた後は、保護カバーを開けないでください。
- ④ ICプレーヤーのボタンを長く押し続けてもランプが光らない、音声流れない、音声聞き取れない、問題冊子の印刷不鮮明で解答に支障がある場合は、ためらわずに黙って手を高く挙げて、監督者に知らせてください。試験が終わってから、これらを申し出ても救済措置はありません。
- ⑤ 解答時間中の質問は、一切受け付けません。
- ⑥ 体調不良やトイレ等やむを得ない場合には、一時退室を認めることがありますが、一時退室が認められた場合でも、問題音声を停止することはできません。また、一時退室した分の試験時間の延長も認められません。

(6) 解答時間中の事故等と再開テスト

- ① 解答時間中に、監督者に申し出なければならない事由が発生した場合には、黙って手を高く挙げて知らせてください。その後、監督者から所定の用紙が受験者に手渡されます。監督者とのやりと

りは、周囲の受験者の解答の妨げにならないよう、声を出さずにこの用紙を使用して筆談で行います。

- ② 解答時間中に IC プレーヤーの不具合や、問題冊子の印刷不鮮明等があった場合は、監督者の指示で試験を中断することがあります。中断を指示された受験者に対しては、試験終了後に再開テストを実施します。
- ③ 再開テストでは、新しい IC プレーヤーにより同じ試験問題を使って、中断した設問からテストを再開します。
- ④ 体調不良等により退室が必要となる受験者がいる場合は、監督者から周囲の受験者に対し、試験の中断を指示することがありますので、その際は、監督者の指示に従ってください。中断を指示された受験者は再開テストを受験することができますので、試験終了まで静かに待機しててください。
- ⑤ 不具合のあった IC プレーヤー一式は、回収し、原因を調査します。調査の結果、虚偽の申出をしたことが判明した場合は不正行為となることがあります。

(7) 試験終了後の IC プレーヤー等の取扱い

ICプレーヤー、音声メモリー及びイヤホンは、試験終了後回収しますので必ず返却してください。これらを試験室から持ち帰ると、不正行為となることがあります。

なお、問題音声は、試験終了後に大学入試センターのホームページ (<http://www.dnc.ac.jp/>) からダウンロードすることができます。

ICプレーヤーの操作準備

ICプレーヤーの操作準備は、解答用紙裏面及び表面のイラストに従い、①～④を受験者が各自で行います。⑤～⑦及び表面のイラストについては、それぞれ監督者の指示があるまで行ってはいけません。

【リスニング解答用紙裏面】

<ICプレーヤーの準備方法>

裏面

①～④を各自で行ってください。分からないことがあったら、手を挙げて知らせてください。⑤～⑦は指示があるまで行わないでください。

① ICプレーヤーに差し込まれたイヤホンを、念のため、もう一度押し込み、奥までしっかりと差し込まれていることを確認した後、イヤホンの「コードどめ」をほどく。

○ (良い例) × (悪い例)

② ICプレーヤーを持ち、音声メモリーの「保護カバー」を上方向に開ける。

③ 音声メモリーを袋から取り出す。ICプレーヤー表面が見えるようにした状態で、矢印の面を表にして、奥に突き当たるまでしっかりと差し込む。

④ 「保護カバー」を閉じる。なお、閉じる際は、「保護カバー」の真ん中を押す。

「保護カバー」の真ん中を押す。

⑤～⑦は、それぞれ監督者の指示を待つこと

⑤ ICプレーヤー裏側の「絶縁シート」を引き抜き、ICプレーヤーが入っていた袋の中に入れる。
(注1) 引き抜く時に表面のボタンを押さないように注意すること。
(注2) 次の指示があるまで、⑥には進まないこと。

引き抜く

⑥ ①の「電源ボタン」を押して、「電源ランプ」が光るまで長く押し続ける。
(注) 次の指示があるまで、⑦には進まないこと。

⑦ ICプレーヤー右側の「スライドカバー」を下方向に移動させる。

イヤホンの左右を確認してから、耳に付け、②の「確認ボタン」を、「作動中ランプ」が光るまで長く押し続ける。「作動中ランプ」が光ったら音量つまみを回して、聞きやすい音量に調節する。

※左右を確認して装着する

コードは前

【リスニング解答用紙表面（抜粋）】

「解答はじめ」の指示があったら、次の手順で操作すること。

解答開始時の操作手順

- イヤホンの左右を確認しながら、耳に付ける。
- 「スライドカバー」を上方向に移動させる。

- ③の「再生ボタン」を「作動中ランプ」が光るまで長く押し続ける。

以後は、問題音声の進行に従って、解答しなさい。

8 追試験の実施

(1) 実施期日は、平成27年1月24日（土）、1月25日（日）です。

ただし、再試験をこの期日より後に実施する必要がある場合は、再試験と同一の期日に実施します。その場合は、追試験の受験許可者には別途通知します。

また、この追試験についての再試験及び追試験はありません。

(2) 追試験場

地 区	試 験 場 名	所 在 地
東 日 本 〔北海道，東北， 関東甲信越，静岡県〕	東京海洋大学 品川キャンパス	〒108-8477 東京都港区港南4-5-7
西 日 本 〔東海（静岡県を除く。） 北陸，近畿，中国， 四国，九州，沖縄〕	神戸大学 国際文化学部	〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲1-2-1

(3) 追試験の受験申請（申請する場合には、あらかじめ、受験票に記載されている「問い合わせ大学」に電話連絡してください。）

次の①又は②に該当する事由により、本試験の2日間とも受験できないか、どちらか1日を受験できない者は、受験票に記載されている「問い合わせ大学」において、申請受付時間内に限り追試験の受験を申請することができます。申請受付時間経過後は、いかなる理由があっても追試験の受験を申請することはできません。

なお、追試験の受験許可の単位は、2日分の教科・科目又は1日分の教科・科目です。1日目又は2日目において、1つの教科・科目でも受験した者は、当該試験日は追試験の対象となりません。

また、2日目に、1日目分の追試験の受験を申請することはできません。

① 疾病・負傷による場合

申請受付時間	<ul style="list-style-type: none"> ・本試験前日（1月16日） 9：00～17：00 ・1日目（1月17日） 7：30～18：10 ・2日目（1月18日） 7：30～17：40
申請方法	<p>ア 本人又は代理人が、受験票に記載されている「問い合わせ大学」に電話連絡した上で、申請受付時間内に「受験票」と「医師の診断書」（治療期間が明記されたもの）を「問い合わせ大学」に持参し、申請してください。</p> <p>許可された場合は、追試験受験許可書が交付されます。</p> <p>イ 申請受付時間内に本人又は代理人が「問い合わせ大学」に行けない場合は、申請受付時間内に疾病・負傷の状況を、「問い合わせ大学」に電話連絡し指示を受けてください。</p>

② 試験場に向かう途中の事故又はやむを得ない事由による場合

(事故等が生じた場合は、速やかに受験票に記載の「問い合わせ大学」に電話連絡してください。)

申請受付時間	試験当日、試験場に向かう途中で事故にあった場合又は交通機関の遅延・予定外の運休にあった場合	その日の試験終了時刻まで (注)
	やむを得ない事由がある場合 やむを得ない事由の例 (・両親又は親族等の危篤，死亡 ・自宅の火災)	<ul style="list-style-type: none"> ・本試験前日 (1月16日) 9:00~17:00 ・1日目 (1月17日) 7:30~18:10 ・2日目 (1月18日) 7:30~17:40
申請方法	<p>ア 本人又は代理人が、受験票に記載されている「問い合わせ大学」に電話連絡した上で、申請受付時間内に「受験票」と「事故又は事由が確認できる証明書等」を「問い合わせ大学」に持参し、申請してください。 許可された場合は、追試験受験許可書が交付されます。</p> <p>イ 申請受付時間内に本人又は代理人が「問い合わせ大学」に行けない場合は、事故等の状況等を、申請受付時間内に「問い合わせ大学」に電話連絡し指示を受けてください。</p>	

(注) 試験時間の繰下げを実施した場合や受験上の配慮により試験時間を延長する場合には、当該試験の終了時刻が申請受付の終了時刻となり、通常終了時刻(1日目18:10、2日目17:40)とは異なるので注意してください。

(4) 追試験における「外国語」及び「数学②」の別冊子試験問題は科目ごとに分かれた冊子になっています。出願時に別冊子の配付を希望した者が、追試験を受験する場合は、**追試験の受験申請時に申請した科目の冊子のみを配付**します。

なお、代理人が追試験の受験申請を行う場合には、あらかじめ志願者本人に追試験における「外国語」及び「数学②」の受験科目を確認した上で申請してください。

(5) 追試験の受験を許可された場合、許可された2日分又は1日分の教科・科目については本試験の受験はできません。受験しても無効となります。

9 試験問題冊子及び解答用紙

(1) 試験当日、受験者に配付される試験問題冊子の種類は、次表のとおりです。

「国語」、 「外国語〔英語(筆記)〕」及び「外国語〔英語(リスニング)〕」以外の冊子は複数の科目が同一の冊子に編集されています。特に「数学①」と「数学②」については、新課程科目と旧課程科目が同一の冊子に編集されていますので、解答する科目を間違えないように注意してください。試験当日は配付される試験問題冊子の注意事項を必ず読んでください。

問題冊子の名称	左の冊子に含まれている科目等
地理歴史	「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」
公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理, 政治・経済」
国語	「国語」
外国語〔英語(筆記)〕	「英語(筆記)」
外国語(別冊)	「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」
外国語〔英語(リスニング)〕	「英語(リスニング)」
理科①	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」
数学①	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」 「旧数学Ⅰ」「旧数学Ⅰ・旧数学A」
数学②	「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」「旧数学Ⅱ・旧数学B」
数学②(別冊)	「工業数理基礎」「簿記・会計」「情報関係基礎」
理科②(新課程科目)	「物理」「化学」「生物」「地学」
理科②(旧課程科目)	「理科総合A」「理科総合B」 「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」「地学Ⅰ」

(2) 「数学①」、 「数学②」及び「理科②」において選択問題がある科目を解答する場合は、選択した問題番号に対応した解答欄にマークすることになりますので、間違えないよう十分注意してください。

(3) 試験問題冊子の注意事項等

大学入試センターのホームページ (<http://www.dnc.ac.jp/>) に試験問題冊子及び解答用紙の一部、解答用紙の正しい記入例等を掲載していますので、あらかじめ確認しておいてください。

10 正解・平均点等の発表

(1) 正解等の発表

大学入試センター試験の本試験、追試験・再試験の正解及び配点については、各日の全試験終了後に、その日行われた科目分を大学入試センターのホームページ (<http://www.dnc.ac.jp/>) で発表します。

(2) 平均点等の発表

大学入試センター試験の本試験の平均点等については、平成27年1月21日（水）に中間発表を、2月5日（木）に最終発表を、大学入試センターのホームページ（<http://www.dnc.ac.jp/>）で行う予定です。

11 試験成績の大学への提供方法

- (1) 大学入試センターは、大学入試センター試験に参加する各大学からの請求に基づき、当該大学の入学志願者の教科・科目の試験成績を、請求した各大学に対して提供します。各大学の教科・科目の指定については、各大学の募集要項等で確認してください。
- (2) 「国語」の特定分野を利用する大学へは、「国語」の得点とは別に出题分野別（「近代以降の文章」「古典（古文、漢文）」）の得点も提供します。
- (3) 「地理歴史、公民」又は「理科②」において2科目を受験した場合は、大学からの請求に基づき「第1解答科目、第2解答科目別の得点及びその合計点」又は「第1解答科目の得点」のいずれかを提供します。
なお、大学が1科目のみの得点を利用する場合には、**第1解答科目の得点を優先して利用**することがありますので、必ず、志望大学の募集要項等で確認してください。
- (4) 理科①の成績については、選択した科目別の得点及びその合計点を提供します。
- (5) 英語の成績については、筆記、リスニング別の得点を提供します。
- (6) 大学入試センター試験に参加する各大学の教科・科目の指定と、指定された教科・科目数を超えて受験した場合の大学への成績提供を例示すると、次表のとおりです。

志願者に対する大学の指定	大学入試センターから大学への成績提供
国語、外国語の2教科から1教科選択	当該大学の志願者が国語、外国語を受験していれば、この2教科の得点
「物理」「化学」「生物」「地理」の4科目から1科目選択	当該大学の志願者が第1解答科目として「物理」を、第2解答科目として「化学」を受験していれば、大学からの請求に基づき、この2科目の得点とその合計点、又は第1解答科目の「物理」の得点のいずれか

(参考)

○受験番号票

試験当日に各受験者の机の上に貼付されていますので、監督者の指示に従い、対応してください。

(原寸 100mm×100mm)

受験番号 1 0 0 1 A
1 携帯電話などの取扱い ① 携帯電話、スマートフォン、音楽プレーヤーなどの音の出る機器をすべて机の上に出す。 ② アラームを解除してから電源を切る。 ③ 電源を切った後、身に付けずにかばんなどにしまう。 ④ 時計のアラーム、時報、目覚まし音の設定を解除する。
2 机の上に置けるもの ○受験票、○写真票、○黒鉛筆、○メモ用のシャープペンシル、○消しゴム、○鉛筆削り、○時計、○眼鏡、○ハンカチ、○ティッシュペーパー(袋から取り出したもの)、○目薬 これら以外は、かばんなどにしまいなさい。

試験当日の所持品チェック欄	
1 受験票・写真票(写真を貼り, 署名する。)	
2 黒鉛筆(H, F, HBに限る。)	
3 プラスチック製の消しゴム	
4 鉛筆削り(電動式・大型のもの・ナイフ類は使用できません。)	
5 時計(辞書, 電卓, 端末等の機能があるもの, それらの機能の有無が判別しづらいもの・秒針音のするもの・キッチンタイマー・大型のものは使用できません。)	
6 受験票に「上履き持参」と表示してある場合は, 上履き・下履きを入れる袋	
7 「受験上の注意」(この冊子)	

■ 大学入試センター試験についての問い合わせ先

- 試験場や追試験の受験申請等について
受験票に記載されている「問い合わせ大学」まで問い合わせてください。
- その他, 試験全般に関する内容について
独立行政法人大学入試センター事業第1課 まで問い合わせてください。

TEL 03-3465-8600 (9:30~17:00)

※ 土・日曜, 祝日及び12月26日~1月5日を除く

- 大学入試センターホームページ

<http://www.dnc.ac.jp/>

「センター試験 Q&A (よくある質問)」や「IC プレーヤーの操作ガイド」, 「問題冊子の注意事項等」, 「不適切なマーク例」などを掲載しています。

モバイルサイトもあります→

<http://www.dnc.ac.jp/i/>

